

全体総括

○計画期間：平成26年4月～令和2年3月（6年）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市の中心市街地は、平成26年3月に「第2期高崎市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、延長の1年間を含む6年を計画期間として、中心市街地活性化に継続して取り組んできた。

この間、高崎駅からの徒歩圏内に、高崎アリーナ、高崎芸術劇場、Gメッセ群馬の3つの大規模集客施設を整備するとともに、駅西口に大型商業施設、高崎オーパを誘致・開業したことにより、中心市街地は交流人口が大幅に増加する都市構造へと変化を遂げてきた。

また、駅周辺を訪れる多くの来街者を中心市街地全体へ回遊させるためのソフト事業として、「高崎まちなかオープンカフェ推進事業」、「高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業」、「高崎市まちなか商店リニューアル助成事業」等を継続展開したことで、歩行者・自転車通行量は当初目標を大幅に上回るなど、計画掲載事業の実施により確実な成果が表れている。

その一方で、駅周辺の既存の商店街では依然として歩行者・自転車通行量が横ばい傾向にあり、引き続き人を呼び込む取り組みが不可欠となっており、まちなかを乗り降り自由・無料で循環する「お店ぐるりんタクシー」の運行や再整備が完了した中央銀座アーケードを活用したイベントの実施等、継続して取り組んでいく必要がある。

現在は、新型コロナウイルス感染拡大に対する緊急事態措置等により、中心市街地における経済活動にも大きな影響が出ており、回復には相当期間かかることが想定されるが、終息後には事業の効果が確実に発現されるよう今後も官民一体となって取り組んでいく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地 区域）	平成25年 度（計画前年 度）	平成26年 度（1年目）	平成27年 度（2年目）	平成28年 度（3年目）	平成29年 度（4年目）	平成30年 度（5年目）	令和元年度 （最終年度）
人口	27,404人	27,568人	27,866人	28,143人	28,099人	27,949人	27,853人
人口増減数	413人	164人	298人	277人	△44人	△150人	△96人
自然増減数	△7人	22人	45人	1人	10人	△35人	△69人
社会増減数	420人	142人	253人	276人	△54人	△115人	△27人
転入者数	1,682人	1,561人	1,686人	1,623人	1,633人	1,564人	1,608人

※社会増減数は、人口増減数－自然増減数として算出している。

※転入者は、市外から区域内の町への異動件数とし、市内区域外からの転居は含めない。

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ① 概ね順調に進捗・完了した ② 順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
② 若干の活性化が図られた
③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

第2期基本計画には活性化事業として66事業を位置付けたが、完了事業が14事業(21%)、実施中の事業が50事業(76%)、合わせて64事業(97%)となっており、概ね順調に進捗・完了したと言える。

高崎駅周辺は、高崎芸術劇場や高崎アリーナ、高崎オーパなど、官民により大規模集客施設を整備したことで集客力が増大し、歩行者・自転車通行量(休日)が最終年度には当初目標の数値を大きく上回って約1.5倍になるなど、確実に事業の効果が表れている。

また、まちなか商店リニューアル助成事業による個店の魅力向上、高崎オーパの集客効果等による周辺店舗の来店客数、売り上げ増加などもあり、小売業年間商品販売額も順調に推移した。新型コロナウイルスの感染防止のための営業時間短縮などにより令和元年度末の売上は減少したものの、最終年度の値は1,338億円で当初目標(1,375億円)の80%を上回り、着実に活性化が図られている。

文化施設の利用者数の合計値は、高崎芸術劇場の整備の遅れと新型コロナウイルスの感染拡大の懸念による2、3月の催事利用のキャンセルにより、最終年度612,544人に留まり当初目標(1,070,770人)を大きく下回ったが、今後は、新型コロナウイルスの終息状況によるものの、徐々に当初見込んだ効果の発現が期待できる。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
② 若干の活性化が図られた
③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

高崎市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体等と協議・調整しながら中心市街地活性化を推進した結果、計画に位置付けた事業等は概ね順調に実施されたと考える。

毎年恒例の大規模イベントや様々な施策の継続実施のほか、高崎駅周辺の官民の大規模集客施設の

整備・誘致や駅東西のペDESTリアンデッキ・広場の整備等の事業効果により、駅前に市内外から多くの人を訪れるようになり、歩行者・自転車通行量は大幅に増加した。また、高崎オーパ開業で周辺の大型店舗も売上げを伸ばすなど、相乗効果も生まれ、中心市街地における小売業年間商品販売額も順調に推移し、中心市街地活性化は確実に図られてきていると評価できる。

一方、駅東口の集客に大きく影響する、オフィス・店舗・ホテル等の機能を備えた再開発ビルの整備や、駅から離れた中心商店街での歩行者通行量の伸び悩み等、中心市街地全体の活性化を図るためには、依然として課題が残っており、新型コロナウイルスの終息状況を注視しながら、引き続き官民一体となって中心市街地活性化に取り組んでいく。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
- ② 若干の活性化が図られた
- ③ 活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④ 活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

第20回市民の声アンケート

調査日：平成30年11月2日から11月15日

調査方法：満18歳以上80歳未満の市民6,000人を無作為抽出し調査用紙を郵送

有効サンプル数：2,944件

このアンケート結果の中で、現在の本市の印象について「まちなかの活性化が図られている」という項目に対してどう思うかを回答する設問では、「そう思う（どちらかと言えばそう思うを含む）」と答えた人の割合は32.7%となっており、平成28年度に比べて3.0%、4年前の平成26年度と比べると3.6%増加している。

また、特に市が力を入れて取り組むべきことはどれかとの設問では、「まちなかの活性化が図られている」を選択した人の割合は15.4%で、平成28年度と比べて8.0%、平成26年度と比べると8.5%もの増加となっている。

これらの調査結果から、「まちなかの活性化」について、現状で感じている市民の割合も、今後の取り組みとして期待している市民の割合も年々増加する傾向にあり、中心市街地の活性化に対する市民の意識の高さが伺える。

さらに、現時点で「将来のまちの姿」の実現に向けた取り組みが行われているか問う設問では、「人々がどう魅力あるまち（産業・観光）」の分野について、「そう思う（どちらかと言えばそう思うを含む）」と答えた人の割合は33.5%となっており、平成28年度に比べて3.7%、平成26年度と比べると6.2%増加している。この結果から、大規模集客施設である高崎アリーナの整備や高崎オーパの誘致といった取り組みにより、高崎駅周辺に多くの人が集まるようになり、まちの魅力が増している

と感じつつも、中心市街地のより一層の活性化が図られることを期待していることが伺える。

6. 今後の取組

本市では、第2期計画の効果と課題を踏まえ、さらなる中心市街地の活性化を図るため、「高崎市中心市街地活性化基本計画（第3期）」を策定し、令和2年3月30日に内閣総理大臣の認定を受けたところである。

第3期計画では、第2期計画期間内に整備した大規模集客施設に加え、今後整備予定の高崎駅東口栄町地区再開発ビル等を活用して集客力のあるイベント等を実施することで、広域からの交流人口の一層の増加を図るとともに、まちなか商店リニューアル助成事業やお店ぐるりんタクシー運行事業等の継続実施により、駅周辺に集まった多くの来訪者を中心市街地全体に呼び込めるよう努めていく。

活性化に寄与するイベント事業については、2期計画に掲載したものにに加え、中央アーケード街活性化事業など新規のものも加えて、これまで以上に賑わいの創出に努めるとともに、マンション建設等の要件を緩和する高崎市居住誘導策や新旧住民の交流機会の創出を支援する地域活動推進事業等に掲載することにより、中心市街地の活力源である居住人口の維持、増加を図っていく。

今後も効果を継続していくことが重要であることから、目標の達成状況に関する評価指標に基づく評価を行い、PDCAサイクルを継続する。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	(参考) 目標値の80%	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
市民・まちなか居住者・広域来訪者が楽しく回遊できるまち	歩行者・自転車通行量(休日)	101,411人/日(H24)	108,500人/日(R1)	107,082人/日(R1)	160,395人/日	R1.10	A
高い集客力を生かした経済活力にあふれるまち	小売業年間商品販売額	1,172億円/年(H23)	1,375億円/年(R1)	1,334億円/年(R1)	1,338億円/年	R2.3	B1
音楽文化を中心とした“高崎文化”を創造・発信するまち	文化施設の利用者数の合計値	612,251人/年(H24)	1,070,770人/年(R1)	979,066人/年(R1)	612,544人/年	R2.3	B2

注) 達成状況欄 (注: 小文字のa、b1、b2、cは下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B1 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。また、最新の実績では目標値の80%を達成。)

B2 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

b1 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値の80%を達成。)

b2 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

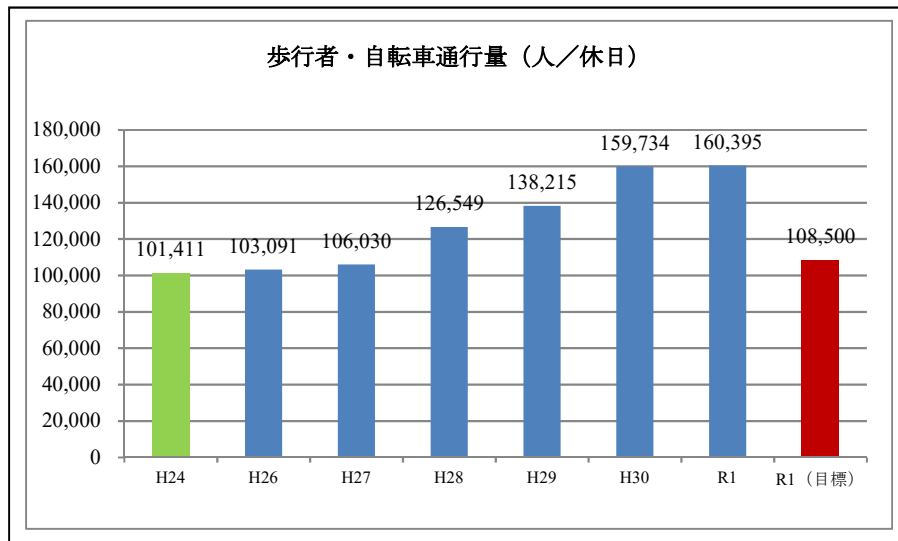
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「歩行者・自転車通行量（休日）」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 68～P. 75 参照

1. 調査結果の推移



年	(人/日)
H24	101,411 (基準年値)
H26	103,091
H27	106,030
H28	126,549
H29	138,215
H30	159,734
R1	160,395 (目標 108,500)

※調査方法：10月の第4日曜日に14地点で10時から20時まで計測

※調査月：令和元年10月

※調査主体：高崎市

※調査対象：中心市街地14地点における歩行者及び自転車の通行量

2. 目標の達成状況【A】

歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり完了・実施し、平成28年度から目標値を達成し続けているため、達成状況はAとした。

高崎駅周辺の大規模集客施設の整備事業の完了により、市内外から多くの人々が訪れるようになり、期待された効果が発現している。今後も歩行者・自転車通行量の増加に寄与する事業として、「高崎駅東口栄町地区再開発事業」によるオフィスや店舗、ホテル等の機能を有する複合ビルを整備が予定されており、さらなる通行量の増加が見込める状況である。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 高崎市まちなか商店リニューアル助成事業（高崎市）

事業実施期間	平成25年度～【実施中】
事業概要	市内の店舗等で新たな競争力をつけるために行うリニューアル工事にかかった費用の一部を支援する。この事業により、店舗等の魅力や集客力、賑わいや回遊性が向上し、中心市街地の活性化に寄与する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度本事業の制度を活用した店舗のうち、その約3割、120件程度が中心市街地の店舗となっており、魅力ある店舗づくりが進んだことから歩行者・自転車通行量が増加した。また、制度を活用した店舗には新たなコミュニティが構築されるなど、賑わいや店舗間の回遊性の向上にも寄与している。
達成した（出来）	助成制度を活用してリニューアルする店舗が増えることで、まちなかに立地する個店の魅力が向上したため。

なかった)理由	
計画終了後の状況(事業効果)	事業が継続して実施されることにより、助成制度を活用してリニューアルする店舗が増えることで個店、ひいては商店街の魅力が向上し、歩行者通行量の増加につながっている。
事業の今後について	平成30年度から2回目のリニューアルの申請も認めるなど、個店の魅力のアップのために令和2年度も事業を継続。

②. 高崎まちなかオープンカフェ推進事業(高崎まちなかオープンカフェ推進協議会)

事業実施期間	平成25年度～【実施中】
事業概要	都市再生特別措置法の改正を契機に歩道上でオープンカフェが行えるようになったことから、まちなかに新たな回遊性と賑わいを創出するため実施している事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(平成26年度～令和元年度)
目標値・最新値及び達成状況	本事業は、平成25年度から継続して行っており、参加店舗は開始時の13店舗から令和元年度には19店舗にまで増え、事業も着実に定着してきており、中心市街地の賑わいの向上に寄与している。
達成した(出来なかった)理由	参加店舗は順調に増加し、まちなかのくつろぎ空間の創出につながったため。
計画終了後の状況(事業効果)	まちなかにオープンカフェが増えることにより、開放感のあるロケーションで長時間滞在できる場所の創出が図られたことで、歩行者・自転車通行量の増加につながった。
事業の今後について	まちなかの賑わいの創出をさらに図っていくために、参加店舗の拡充を図りながら事業を継続していく。

③. 高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業
(高崎まちなかコミュニティサイクル推進協議会)

事業実施期間	平成25年度～【実施中】
事業概要	まちの移動手段の多様化は都市の魅力を高めることから、新たな交通手段として実施する事業。この事業を行うことにより、中心市街地に新たな賑わいと回遊性の向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(平成26年度～令和元年度)
目標値・最新値及び達成状況	本事業は、平成25年度から継続して行っている事業であり、自転車数が開始時の100台から150台に、サイクルポートが12箇所から16箇所に増加した。中心市街地を移動する新たな交通手段として事業も定着しており、中心市街地の回遊性の向上に寄与している。
達成した(出来なかった)理由	事業実施後、自転車台数やサイクルポート数を増やすことにより、まちなかを回遊する手段として大いに寄与したため。
計画終了後の状況(事業効果)	誰でも手軽に利用できるコミュニティサイクルとして多くの人々が利用したことにより、まちなかの回遊性向上につながった。
事業の今後について	まちなかの賑わいと回遊性をさらに向上させるために、他の事業と連携・補完しながら事業を継続していく。

④. 地域交流センター整備事業(高崎文化芸術センター整備事業)(高崎市)

事業実施期間	平成22年度～令和元年度【済】
事業概要	群馬県の玄関口である高崎駅の利便性や高速交通網を生かした広域誘客を図るため、芸術文化創造の中心となる施設を整備し、賑わいと情報発信の拠点とする。

国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(高崎駅東南地区))(国土交通省)(平成26年度～平成28年度) ②社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(高崎駅東口地区))(国土交通省)(平成26年度～令和元年度) ③社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(高崎駅東口周辺地区))(国土交通省)(平成29年度～令和元年度)
目標値・最新値及び達成状況	目標値 380,000人 最新値 125,370人 目標未達成 (年間利用者数より、事業効果を算出)
達成した(出来なかった)理由	整備事業の遅れにより、開館が遅れ年間を通じての稼働ができなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	高崎芸術劇場は、令和元年6月に整備事業が完了、9月に開館した。約半年間の稼働のため、利用者は年間目標値には達していないが、今後は高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備された大規模集客施設として、イベント開催時などは歩行者・自転車通行量の増加等の効果が期待できる。
事業の今後について	今後は、整備した施設内で大規模なコンサート等のイベントを開催するなど、効果的な活用に努め、利用者数の増加を図っていく。

⑤. 新体育館建設事業(高崎市)

事業実施期間	平成24年度～平成28年度【済】
事業概要	老朽化した中央体育館を移転新築し、市民が利用しやすい施設・設備とすることで、市民スポーツの普及と振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(高崎駅東南地区)と一体の効果促進事業)(国土交通省)(平成26年度～平成28年度)
目標値・最新値及び達成状況	目標値 440,000人 最新値 278,252人 目標未達成 (年間利用者数より、事業効果を算出)
達成した(出来なかった)理由	令和元年度は、スポーツの大規模大会等の開催により順調に利用者数が増えていたが、年度末の新型コロナウイルスの影響等により予定されていた大会の中止等により数値が伸び悩んだため。
計画終了後の状況(事業効果)	新体育館(高崎アリーナ)は、平成29年4月の開館以来、国際・全国規模の各種大会を積極的に誘致・開催するなど、集客効果は高く、中心市街地の賑わいの創出に大きく寄与している。
事業の今後について	広域からの交流人口を誘引する都市集客施設として、引き続き大規模大会の誘致・開催等により集客に取組み、まちなかのさらなるにぎわい創出につなげていく。

⑥. 群馬県コンベンション施設整備事業(群馬県)

事業実施期間	平成25年度～令和元年度【済】
事業概要	高崎競馬場跡地に大規模展示施設、メインホール、大規模な学術会議に対応する会議室を備えたコンベンション施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(群馬県コンベンション地区))(国土交通省)(平成26年度～令和元年度)
目標値・最新値及び達成状況	令和2年3月事業完了のため利用者数はなし
達成した(出来なかった)理由	計画期間内に開館できなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	事業効果は、今後発現予定だが、展示会や学会、コンサートなど大規模イベントの開催等により大きな集客が見込める。
事業の今後について	今後は、本事業により整備したGメッセ群馬で積極的に催事を誘致・開催することで、広域からの交流人口の増加、まちなかの賑わいの向上を図っていく。

⑦. 高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業（再開発組合）

事業実施期間	平成 22 年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	群馬県の玄関口である高崎駅の利便性や高速交通網を生かした広域誘客を図るため、商業・オフィスビルを整備し、賑わいと情報発信の拠点とする。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成 26 年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備されるオフィス・店舗・ホテルなどで構成される再開発ビルは、集客力の向上や賑わいの創出に寄与し、飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。現在は、事業着工に向け準備を行っているところである。
達成した（出来なかった）理由	事業の進捗が遅れているため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業に着手していないため、事業効果は発現していない。
事業の今後について	次期計画に事業を掲載し、今後は、再開発準備組合での基本計画案の協議決定、都市計画決定、再開発組合の設立と事業を進め、事業着工を目指していく。

⑧. 高崎オーパ整備事業（株式会社 オーパ）

事業実施期間	平成 27 年度～平成 29 年度【済】 [認定基本計画：平成 26 年度～平成 29 年度]
事業概要	ビブレ跡地などに高崎オーパを整備し、広域からの集客向上と商業拠点の機能強化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	高崎駅西口のビブレが閉店し、ビブレの規模を上回る新たな高崎オーパの整備を行った。平成 29 年 10 月にオープンし、多くの買い物客で賑わいを創出している。
達成した（出来なかった）理由	来店者数などは非公表だが、開業により駅周辺への来訪者が増えたため。
計画終了後の状況（事業効果）	駅周辺の大型商業施設として、集客に大きく寄与するとともに、周辺店舗も売上げを伸ばすなど相乗効果も生み出しており、中心市街地の活性化に貢献している。
事業の今後について	広域からの交流人口を誘引する大型商業施設として、周辺店舗も含んだ高崎駅周辺のより一層の集客を図り、まちなかのにぎわい創出につなげていく。

⑨. 高崎駅西口ペDESTロリアンデッキ整備事業（高崎市）

事業実施期間	平成 26 年度～平成 30 年度【済】 [認定基本計画：平成 22 年度～平成 30 年度]
事業概要	高崎駅から西口駅前広場に面して整備される商業施設をペDESTロリアンデッキで接続することで、安全・快適な歩行者空間を確保するとともに、駅東西自由通路を介した回遊性と賑わいの向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎市中心市街地地区））（国土交通省）（平成 27 年度～平成 30 年度） [認定基本計画：平成 26 年度～平成 30 年度]
目標値・最新値及び達成状況	事業が完了したことにより、駅や駐車場から大型商業施設へのアクセスがスムーズになり集客力が増したことで、歩行者通行量の増加、回遊性の向上に寄与している。

達成した（出来なかった）理由	事業が予定どおり完了し、安全・快適な歩行者空間が確保されたため。
計画終了後の状況（事業効果）	整備事業の効果として、人が歩きやすく集まりやすい空間が創出され、賑わいの創出につながっている。
事業の今後について	ペDESTリアンデッキの安全管理に努めながら、高崎駅西口を訪れる多くの人に利用してもらうことにより、中心市街地におけるさらなる回遊性向上、にぎわいの創出を図っていく。

⑩. 高崎公園・烏川緑地間人道橋整備事業（高崎市）

事業実施期間	平成 24 年度～平成 26 年度【済】
事業概要	中心市街地に位置する高崎公園から国道 17 号を跨ぎ烏川緑地へと連絡する人道橋を整備することにより、水辺を身近に感じることのできる潤いのあるまちづくりを創出するとともに、まちなか回遊性の向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎市中心市街地地区））（国土交通省）（平成 26 年度）
目標値・最新値及び達成状況	事業が完了し、まちなかと水辺空間を一体的に回遊する人が増えた。
達成した（出来なかった）理由	事業が予定どおり完了し、安全・快適な歩行者空間が創出されたため。
計画終了後の状況（事業効果）	整備事業が完了したことにより、高崎公園や烏川河岸を訪れる人が増え、まちなかの歩行者・自転車通行量の増加につながっている。
事業の今後について	烏川緑地での集客イベントの開催等より、都心部と水辺空間の一体的な回遊がさらに図られるよう引き続き取り組んでいく。

⑪. 高崎駅東口ペDESTリアンデッキ整備事業（高崎市）【平成 27 年度追加】

事業実施期間	平成 28 年度～令和元年度【済】
事業概要	高崎駅と高崎駅東口に整備される集客施設をペDESTリアンデッキで接続することで、安全・快適な歩行者空間を確保するとともに、駅東西の回遊性と賑わいの向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎市中心市街地地区））（国土交通省）（平成 28 年度～令和元年度） ②社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎駅東口周辺地区））（国土交通省）（平成 29 年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度の工事完了・開通により、歩行者通行量が増加した。
達成した（出来なかった）理由	事業が完了し、高崎駅から高崎芸術劇場までの間をペDESTリアンデッキでつなぐことで、駅から訪れる人にとっての安全・快適な歩行空間が確保されたため。
計画終了後の状況（事業効果）	高崎芸術劇場の開館とともに、市内外から鉄道等の交通機関を利用してイベント等に訪れる人が利用するようになり、歩行者通行量の増加に寄与している。
事業の今後について	ペDESTリアンデッキの安全管理に努めながら、高崎駅東口を訪れる多くの人に利用してもらうことにより、中心市街地におけるさらなる回遊性向上、にぎわいの創出を図っていく。

⑫. 高崎駅西口駅前広場整備事業（高崎市）【平成 28 年度追加】

事業実施期間	平成 29 年度【済】
事業概要	高崎駅西口駅前広場の再編整備を行うことで、慢性的な渋滞の緩和、公共交通の定時性の確保、歩行者の安全性・利便性の向上を図るとともに、東西駅前広場に隣接する施設への回遊性を高める。

国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎市中心市街地地区））（国土交通省）（平成 29 年度）
目標値・最新値及び達成状況	駅前広場の再編成整備が完了したことで、混雑が緩和され、タクシーや公共交通でまちなかに訪れやすくなった。
達成した（出来なかった）理由	タクシープールの再編、公共交通と一般車両の区分け等を実施したことで、円滑な交通の確保、歩行者の安全性の向上が図られたため。
計画終了後の状況（事業効果）	駅前広場の整備とともに高崎オーパの進出やペDESTリアンデッキの増改築の効果により、歩行者・自転車通行量が増加している。
事業の今後について	整備後も引き続き円滑な交通、歩行者の安全性を確保できるよう努め、より多くの人に利用してもらうことにより駅前の一層のにぎわい創出につなげていく。

⑬. まちなか緑化重点整備事業（高崎市）

事業実施期間	平成 27 年度～平成 29 年度【済】 [認定基本計画：平成 25 年度～平成 29 年度]
事業概要	緑が少なく潤いに乏しい中心市街地に、身近な緑のネットワークを形成し、都市のイメージを向上させるシンボル性のあるまちなみを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	平成 27 年度より平成 29 年度までの 3 年をかけ、サクラの植樹を行ったことにより、シンボル性のある緑地が創出され、中心市街地の賑わいに寄与している。
達成した（出来なかった）理由	城址公園のお堀のサクラを植樹することにより、まちなかを訪れてもらう環境が整備されたため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業完了により、高崎公園・烏川河岸と一体となったまちなかに安全・快適な憩いの空間が創出され、歩行者・自転車通行量の増加につながっている。
事業の今後について	既存及び、植樹したサクラの木の維持保全を継続して行い、開花する春だけでなく一年を通じて中心市街地を訪れる人に緑の潤いを提供し、より一層の賑わい創出につなげていく。

⑭. 多機能型住居整備事業（医療法人社団 山崎会ほか）

事業実施期間	平成 26 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	多機能型住居（子ども預かり施設、福祉センター、多世代交流施設、学生向け住宅など）を整備し、中心市街地の交流と賑わいの向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	事業完了により、多世代が交流できる生活空間の創出が図られた。
達成した（出来なかった）理由	事業完了し、多世代にわたる人々が入居・入所、施設利用等で利用することとなったため。
計画終了後の状況（事業効果）	住環境の整備により、中心市街地の居住人口の増加に寄与するとともに、入居者等がまちなかで買い物等をするなど、賑わいも創出され、歩行者・自転車通行量の増加につながっている。
事業の今後について	整備した多機能型住居のさらなる利用を促し、施設利用者や入居者にまちなかの商店街等に立ち寄ってもらうことにより、回遊性の向上、賑わいの創出を図っていく。

⑮. 高崎商都博覧会（高崎商工会議所、高崎商都博覧会実行委員会）

事業実施期間	平成 22 年度～【実施中】
事業概要	商都高崎の魅力を発信するため、中心市街地の大型店5店舗での買い物や高崎まちなかオープンカフェ参加店での食事等をした人を対象にして、約 2,000 本の景品が当たる抽選会を実施。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 26 年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	期間中は多くの人々が訪れ、まちなかの経済活力の向上と回遊性の向上に寄与している。平成 31 年度は 4 月に 6 日間開催した。
達成した（出来なかった）理由	中心市街地に立地する大型店舗等の連携により、民間主導でまちなかへの集客やにぎわいの創出に積極的に取り組んでいるため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業の実施期間中は、駅周辺を中心に市内外から多くの買い物客等が訪れ、大型店舗への来店客や歩行者の増加につながっている。
事業の今後について	今後も、まちなかの経済活力と回遊性の向上のために官民一体となって事業を継続していく。

⑯. 都市計画道路仲通り線修景施設整備事業（高崎市）【平成 27 年度追加】

事業実施期間	平成 27 年度～平成 29 年度【済】
事業概要	商店街の通りの賑わいと活力の向上を図るため、大雪で崩落した中央銀座商店街のアーケードの屋根を修復するにあたり、昭和の風情漂う空間づくりを目指して、飲食店街や道路と一体的に再整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎市中心市街地地区））（平成 28 年度）
目標値・最新値及び達成状況	平成 29 年度に事業完了し、中心市街地の新たな集客の拠点が創出された。
達成した（出来なかった）理由	事業完了後、再整備した中央アーケード街の活用策として、新たな飲食店誘致やイベント開催などにより集客が図れているため。
計画終了後の状況（事業効果）	アーケードを整備し活用することにより、新たな賑わいの空間が生まれ、商店街等中心市街地全体の活性化につながる。
事業の今後について	再整備したアーケードにおいて、引き続き集客イベントの企画・実施等を行うことにより、中央銀座商店街とその周辺地域のさらなるにぎわいの創出を図る。

⑰. 高崎だるま市（高崎だるま市実行委員会）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	高崎の伝統工芸品「高崎だるま」を販売するだるま市を元日からまちなかで開催し、同時に飲食の出店、イベントの開催、初詣無料巡回バスの運行等も実施することで、本市への誘客と中心市街地活性化につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	元旦・2日の2日間で約37万人の来場者を集めるなど、まちなかの賑わいの創出に大きく寄与している。
達成した（出来なかった）理由	高崎を代表する新年幕開けのイベントとして、多くの人に認知され定着したため。
計画終了後の状況（事業効果）	2日間で市内外から大勢の人が訪れるため、歩行者通行量の増加とともに、だるまや飲食物、周辺店舗の売上げなど経済面での効果も大きい。

事業の今後について	年始に中心市街地の活気を醸成する代表的な事業として今後も継続していく予定。
-----------	---------------------------------------

⑱. たかさきキッズパーク（たかさきこどもまつり実行委員会）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の公共施設内に世界の優れたあそび道具を集めた全天候型のあそび場を設置することにより、親子連れなど多くの人々に楽しんでもらうとともに、まちなかを訪れる機会を創出し、活性化につなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度は 9 月の 10 日間、市総合保健センター内で開催し、期間中は 1 万人以上が来館するなど、まちなかの賑わいの創出に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	事業の実施により、まちなかに親子で楽しめる空間が新たに創出されたため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業実施により、会場を訪れた親子連れが、その前後にまちなかで買物をするなど回遊することにより、中心市街地の賑わいにつながっている。
事業の今後について	より多くの人々がまちなかを訪れる機会を創出する事業として今後も継続実施していく。

⑲. 高崎菓子まつり（高崎菓子業組合）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	市内の菓子職人が腕を振ったお菓子を一同に味わうことができるほか、プロが教える菓子づくり体験などを実施することにより、市内外からの多くの誘客を図り、まちなかの賑わいの創出につなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度は、中心市街地の広場を会場として、約 10,000 人の来場者を集めるなど、まちなかの賑わいの創出に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	ワンコイン菓子（100 円）の販売、菓子作りやパン焼きの体験、音楽の演奏等魅力あるイベント実施により、多くの人々が訪れるようになったため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業実施により、会場を訪れた人たちが、その前後にまちなかで買物をするなど回遊することにより、中心市街地の賑わいにつながっている。
事業の今後について	まちなかのにぎわいの創出に寄与する事業として今後も継続実施していく。

⑳. たかさきハロウィン（たかさきハロウィン実行委員会）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	こどもから大人まで参加できる仮装コンテストや音楽ライブを実施し、若者だけでなく家族連れなど多くの人々がまちなかを訪れることができる機会を提供する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度には 3 回目迎え、本市の秋を代表するイベントとして定着してきており、参加者や見物客で、中心市街地の賑わいを創出している。
達成した（出来なかった）理由	仮装コンテストやフェイスペイント、スタンプラリー、フォトスポット設置など様々なイベントを実施し、多くの若者や家族連れが訪れるようになったため。

計画終了後の状況（事業効果）	事業実施により、会場を訪れた人たちが、その前後にまちなかで買物をするなど回遊することにより、中心市街地の賑わいにつながっている。
事業の今後について	まちなか全体のにぎわいの創出に寄与する事業として今後も実施していく。

②. 高崎アートインキュベーション推進事業（高崎アートインキュベーション推進会議）
【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	高崎駅周辺を中心としたエリアで、アート（音楽・美術・デザイン・パフォーマンス等）によるまちづくりを進め、発信型のアートの創造と文化産業の創出等を行うことで、本市への誘客と中心市街地の活性化につなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成 28 年度～平成 30 年度）
目標値・最新値及び達成状況	優れたアーティストが高崎市に集結し、まちなかがアートに染まる「アートプロジェクト高崎」を開催するなど、文化芸術振興はもとよりまちなかの誘客にも寄与した。
達成した（出来なかった）理由	中心市街地の広場や街路樹、街灯、建物壁面などに作品を制作することにより、まちなかの魅力が増したため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業実施により、アートを鑑賞に訪れた人たちが、その前後にまちなかで買物をするなど回遊することにより、中心市街地の賑わいにつながっている。
事業の今後について	まちなかを歩いて回遊する機会を創出する事業として今後も実施していく。

②. たかさき観光情報海外発信事業（高崎市）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	高崎市で認定した「高崎観光大使」が発信している観光やグルメ情報などの地域的话题を、「高崎市外国人観光客おもてなし通訳・翻訳ボランティア」に翻訳してもらい、言語ごとに SNS を利用し、情報発信を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	約 20 名の翻訳ボランティアが、令和元年度は、6 言語（英語・中国語・台湾語・韓国語・タイ語・ポーランド語）に翻訳し、196 件の投稿を行うなど、中心市街地を中心とした市内各地域への誘客に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	事業実施により、海外へ高崎市の魅力ある情報を発信することができ、高崎を訪れるきっかけを作っているため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業実施により、高崎を訪れる外国人が増え、まちなかの賑わいの創出につながっている。
事業の今後について	外国人を対象としたまちなかへのインバウンド施策の一つとして今後も実施していく。

4. 今後の対策

目標達成に向けた主要事業は、高崎駅周辺の大規模集客施設の整備事業が完了したため、市内外から多くの人を訪れるようになり、計画当初に見込んでいた効果が発現された。整備の遅れにより効果が十分でなかった G メッセ群馬や今後整備予定の「高崎駅東口栄町地区再開発事業」によるオフィスや店舗、ホテル等の機能を有する複合ビルの活用等により、さらなる通行量の増加が見込める状況

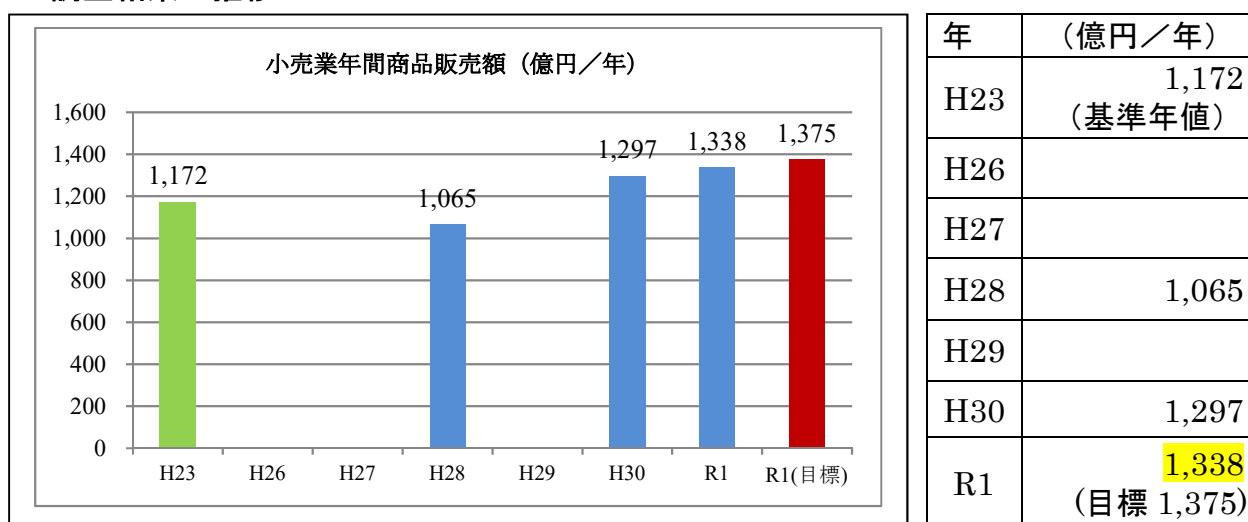
である。

一方で、駅から離れた従来の商店街等では、歩行者・自転車通行量が横ばいとなっており、回遊性向上の取組等によって、集客を図っていく必要があるため、まちなか商店リニューアル助成事業やお店ぐるりんタクシー運行事業、中央アーケード街活性化事業を継続実施する。

次期計画においても、歩行者・自転車通行量を目標指標に位置付け、上記事業等の実施により2期計画で数値が伸び悩んでいた商店街等の活性化の推移が把握できるよう、調査地点を組み替えて測定するなどしながら検証していく。

「小売業年間商品販売額」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 76～P. 84 参照

1. 調査結果の推移



※調査方法：商業統計調査、経済センサス等に基づく推計

(新型コロナウイルスの影響については、公表している大手百貨店の3月の対前年比売上高25%減を参考に推計)

※調査年：令和元年度

※調査主体：高崎市

※調査対象：中心市街地の小売業

2. 目標の達成状況【B1】

小売業年間商品販売額の増額に向けた各事業については、概ね予定どおり完了・実施し、令和元年度の数値も目標値の80%を達成したため、達成状況はB1とした。

まちなか商店リニューアル助成事業による個店の魅力向上に加え、高崎駅前の大規模商業施設の開業により、周辺店舗の来店客数、売り上げ増加などの波及効果も生まれた。新型コロナウイルス感染拡大により3月には大手百貨店の売り上げが前年と比べ約25%下がるなど大きな影響はあったものの、計画期間を通じてほぼ期待通りの効果が発揮された。

今後は、新型コロナウイルスの終息状況を見極めながら、計画期間中に十分な効果が発揮されなかった高崎芸術劇場やGメッセ群馬、整備予定の高崎駅東口栄町地区の再開発ビル等を活用して各種イベントを実施することで、買い物や食事をしてもらえる機会が増え、より一層の効果の発現が見込める。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業（再開発組合）

事業実施期間	平成22年度～令和4年度【実施中】
事業概要	群馬県の玄関口である高崎駅の利便性や高速交通網を生かした広域誘客を図るため、商業・オフィスビルを整備し、賑わいと情報発信の拠点とする。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成26年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備されるオフィス・店舗・ホテルなどで構成される再開発ビルは、集客力の向上や賑わいの創出に寄与し、飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。現在は、事業着工に向け準備を行っているところである。
達成した（出来なかった）理由	事業の進捗が遅れているため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業に着手していないため、事業効果は発現していない。
事業の今後について	次期計画に事業を掲載し、今後は、再開発準備組合での基本計画案の協議決定、都市計画決定、再開発組合の設立と事業を進め、事業着工を目指していく。

②. 高崎オーパ整備事業（株式会社 オーパ）

事業実施期間	平成27年度～平成29年度【済】 [認定基本計画：平成26年度～平成29年度]
事業概要	ビブレ跡地などに高崎オーパを整備し、広域からの集客向上と商業拠点の機能強化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	高崎駅西口のビブレが閉店し、ビブレの規模を上回る新たな高崎オーパの整備を行った。平成29年10月にオープンし、多くの買い物客で賑わいを創出している。
達成した（出来なかった）理由	来店者数などは非公表だが、開業により駅周辺への来訪者は増えたため。
計画終了後の状況（事業効果）	駅周辺の大型商業施設として、集客に大きく寄与するとともに、周辺店舗も売上げを伸ばすなど相乗効果も生み出しており、中心市街地の活性化に貢献している。
事業の今後について	広域からの交流人口を誘引する大型商業施設として、周辺店舗も含んだ高崎駅周辺のより一層の集客を図り、まちなかのにぎわい創出につなげていく。

③. 個店研修事業（商店街団体）

事業実施期間	平成26年度～【未】
事業概要	中心市街地の商店街における個店の経営力や消費者に支持される店づくりを行うために、個店研修の支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	個店の経営指導や消費者に支持される店づくりについての研修事業を行うことにより、個店の魅力が増し、商店街全体の買い物や飲食を目的とした集客に効果をもたらす。実施実績はなし。

達成した（出来なかった）理由	個店が、まちなか商店リニューアル助成事業などを活用して、時代のニーズに合うよう店を改修するなど、他の方法で店づくりを行ったため。
計画終了後の状況（事業効果）	本事業自体は未実施であるため、効果は発現していない。
事業の今後について	次期計画には継続しないが、商店街や個店に対する様々な支援は引き続き行っていく。

④. 高崎市まちなか商店リニューアル助成事業（高崎市）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	市内の店舗等で新たな競争力をつけるために行うリニューアル工事にかかった費用の一部を支援する。この事業により、店舗等の魅力や集客力、賑わいや回遊性が向上し、中心市街地の活性化に寄与する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度本事業の制度を活用した店舗のうち、その約 3 割、100 件程度が中心市街地の店舗となっており、魅力ある店舗づくりが進んだことから歩行者・自転車通行量が増加した。また、制度を活用した店舗には新たなコミュニティが構築されるなど、賑わいや店舗間の回遊性の向上にも寄与している。
達成した（出来なかった）理由	助成制度を活用してリニューアルする店舗が増えることで、まちなかに立地する個店の魅力が向上したため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業が継続して実施されることにより、助成制度を活用してリニューアルする店舗が増えることで個店、ひいては商店街の魅力が向上し、歩行者通行量の増加につながっている。
事業の今後について	平成 30 年度から 2 回目のリニューアルの申請も認めるなど、個店の魅力のアップのために令和 2 年度も事業を継続。

⑤. 高崎商都博覧会（高崎商工会議所、高崎商都博覧会実行委員会）

事業実施期間	平成 22 年度～【実施中】
事業概要	商都高崎の魅力を発信するため、中心市街地の大型店 5 店舗での買い物や高崎まちなかオープンカフェ参加店での食事等をした人を対象にして、約 2,000 本の景品が当たる抽選会を実施。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 26 年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	期間中は多くの人々が訪れ、まちなかの経済活力の向上と回遊性の向上に寄与している。平成 31 年度は 4 月に 6 日間開催した。
達成した（出来なかった）理由	中心市街地に立地する大型店舗等の連携により、民間主導でまちなかへの集客やにぎわいの創出に積極的に取り組んでいるため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業の実施期間中は、駅周辺を中心に市内外から多くの買い物客等が訪れ、大型店舗への来店客や歩行者の増加につながっている。
事業の今後について	今後も、まちなかの経済活力と回遊性の向上のために官民一体となって事業を継続していく。

⑥. 高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業

（高崎まちなかコミュニティサイクル推進協議会）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	まちの移動手段の多様化は都市の魅力を高めることから、新たな交通手段として実施する事業。この事業を行うことにより、中心市街地に新たな

	賑わいと回遊性の向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 26 年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	本事業は、平成 25 年度から継続して行っている事業であり、自転車数が開始時の 100 台から 150 台に、サイクルポートが 12 箇所から 16 箇所に増加した。中心市街地を移動する新たな交通手段として事業も定着しており、中心市街地の回遊性の向上に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	事業実施後、自転車台数やサイクルポート数を増やすことにより、まちなかを回遊する手段として大いに寄与したため。
計画終了後の状況（事業効果）	誰でも手軽に利用できるコミュニティサイクルとして多くの人々が利用したことにより、まちなかの回遊性向上につながった。
事業の今後について	まちなかの賑わいと回遊性をさらに向上させるために、他の事業と連携・補完しながら事業を継続していく。

⑦. 地域交流センター整備事業（高崎文化芸術センター整備事業）（高崎市）

事業実施期間	平成 22 年度～令和元年度【済】
事業概要	群馬県の玄関口である高崎駅の利便性や高速交通網を生かした広域誘客を図るため、芸術文化創造の中心となる施設を整備し、賑わいと情報発信の拠点とする。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎駅東南地区））（国土交通省）（平成 26 年度～平成 28 年度） ②社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（高崎駅東口地区））（国土交通省）（平成 26 年度～令和元年度） ③社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎駅東口周辺地区））（国土交通省）（平成 29 年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	目標値 380,000 人 最新値 125,370 人 目標未達成（年間利用者より、事業効果を算出）
達成した（出来なかった）理由	整備事業の遅れにより、開館が遅れ年間を通じての稼働ができなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	高崎芸術劇場は、令和元年 6 月に整備事業が完了、9 月に開館した。約半年間の稼働のため、利用者は年間目標値には達していないが、今後は高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備された大規模集客施設として、イベント開催時などは歩行者・自転車通行量の増加等の効果が期待できる。
事業の今後について	今後は、整備した施設内で大規模なコンサート等のイベントを開催するなど、効果的な活用に努め、利用者数の増加を図っていく。

⑧. 新体育館建設事業（高崎市）

事業実施期間	平成 24 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	老朽化した中央体育館を移転新築し、市民が利用しやすい施設・設備とすることで、市民スポーツの普及と振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎駅東南地区）と一体の効果促進事業）（国土交通省）（平成 26 年度～平成 28 年度）
目標値・最新値及び達成状況	目標値 440,000 人 最新値 278,252 人 目標未達成（年間利用者より、事業効果を算出）
達成した（出来なかった）理由	令和元年度は、スポーツの大規模大会等の開催により順調に利用者数が増えていたが、年度末の新型コロナウイルスの影響等により予定されていた大会の中止等により数値が伸び悩んだため。
計画終了後の状況（事業効果）	新体育館（高崎アリーナ）は、平成 29 年 4 月の開館以来、国際・全国規模の各種大会を積極的に誘致・開催するなど、集客効果は高く、中心市街地の賑わいの創出に大きく寄与している。

事業の今後について	広域からの交流人口を誘引する都市集客施設として、引き続き大規模大会の誘致・開催等により集客に取組み、まちなかのさらなるにぎわい創出につなげていく。
-----------	---

⑨. 群馬県コンベンション施設整備事業（群馬県）

事業実施期間	平成25年度～令和元年度【済】
事業概要	高崎競馬場跡地に大規模展示施設、メインホール、大規模な学術会議に対応する会議室を備えたコンベンション施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（群馬県コンベンション地区））（国土交通省）（平成26年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	令和2年3月事業完了のため利用者数はなし
達成した（出来なかった）理由	計画期間内に開館できなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業効果は、今後発現予定だが、展示会や学会、コンサートなど大規模イベントの開催等により大きな集客が見込める。
事業の今後について	今後は、本事業により整備したGメッセ群馬で積極的に催事を誘致・開催することで、広域からの交流人口の増加、まちなかの賑わいの向上を図っていく。

⑩. 高崎だるま市（高崎だるま市実行委員会）【平成29年度追加】

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	高崎の伝統工芸品「高崎だるま」を販売するだるま市を元日からまちなかで開催し、同時に飲食の出店、イベントの開催、初詣無料巡回バスの運行等も実施することで、本市への誘客と中心市街地活性化につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	元旦・2日の2日間で約37万人の来場者を集めるなど、まちなかの賑わいの創出に大きく寄与している。
達成した（出来なかった）理由	高崎を代表する新年幕開けのイベントとして、多くの人に認知され定着したため。
計画終了後の状況（事業効果）	2日間で市内外から大勢の人が訪れるため、歩行者通行量の増加とともに、だるまや飲食物、周辺店舗の売上げなど経済面での効果も大きい。
事業の今後について	年始に中心市街地の活気を醸成する代表的な事業として今後も継続していく予定。

⑪. 高崎菓子まつり（高崎菓子業組合）【平成29年度追加】

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	市内の菓子職人が腕を振ったお菓子を一同に味わうことができるほか、プロが教える菓子づくり体験などを実施することにより、市内外からの多くの誘客を図り、まちなかの賑わいの創出につなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度は、中心市街地の広場を会場として、約10,000人の来場者を集めるなど、まちなかの賑わいの創出に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	ワンコイン菓子（100円）の販売、菓子作りやパン焼きの体験、音楽の演奏等魅力あるイベント実施により、多くの人々が訪れるようになったため。

計画終了後の状況（事業効果）	事業実施により、会場を訪れた人たちが、その前後にまちなかで買物をするなど回遊することにより、中心市街地の賑わいにつながっている。
事業の今後について	まちなかのにぎわいの創出に寄与する事業として今後も継続実施していく。

⑫. たかさきハロウィン（たかさきハロウィン実行委員会）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	こどもから大人まで参加できる仮装コンテストや音楽ライブを実施し、若者だけでなく家族連れなど多くの人々がまちなかを訪れることができる機会を提供する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	令和元年度には 3 回目迎え、本市の秋を代表するイベントとして定着してきており、参加者や見物客で、中心市街地の賑わいを創出している。
達成した（出来なかった）理由	仮装コンテストやフェイスペイント、スタンプラリー、フォトスポット設置など様々なイベントを実施し、多くの若者や家族連れが訪れるようになったため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業実施により、会場を訪れた人たちが、その前後にまちなかで買物をするなど回遊することにより、中心市街地の賑わいにつながっている。
事業の今後について	まちなか全体のにぎわいの創出に寄与する事業として今後も実施していく。

⑬. 高崎アートインキュベーション推進事業（高崎アートインキュベーション推進会議）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	高崎駅周辺を中心としたエリアで、アート（音楽・美術・デザイン・パフォーマンス等）によるまちづくりを進め、発信型のアートの創造と文化産業の創出等を行うことで、本市への誘客と中心市街地の活性化につなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成 28 年度～平成 30 年度）
目標値・最新値及び達成状況	優れたアーティストが高崎市に集結し、まちなかがアートに染まる「アートプロジェクト高崎」を開催するなど、文化芸術振興はもとよりまちなかの誘客にも寄与した。
達成した（出来なかった）理由	中心市街地の広場や街路樹、街灯、建物壁面などに作品を制作することにより、まちなかの魅力が増したため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業実施により、アートを鑑賞に訪れた人たちが、その前後にまちなかで買物をするなど回遊することにより、中心市街地の賑わいにつながっている。
事業の今後について	まちなかを歩いて回遊する機会を創出する事業として今後も実施していく。

⑭. たかさき観光情報海外発信事業（高崎市）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	高崎市で認定した「高崎観光大使」が発信している観光やグルメ情報などの地域的话题を、「高崎市外国人観光客おもてなし通訳・翻訳ボランティア」に翻訳してもらい、言語ごとに SNS を利用し、情報発信を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

目標値・最新値及び達成状況	約20名の翻訳ボランティアが、令和元年度は、6言語（英語・中国語・台湾語・韓国語・タイ語・ポーランド語）に翻訳し、196件の投稿を行うなど、中心市街地を中心とした市内各地域への誘客に寄与している。
達成した（出来なかった）理由	事業実施により、海外へ高崎市の魅力ある情報を発信することができ、高崎を訪れるきっかけを作っているため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業実施により、高崎を訪れる外国人が増え、まちなかの賑わいの創出につながっている。
事業の今後について	外国人を対象としたまちなかへのインバウンド施策の一つとして今後も実施していく。

4. 今後の対策

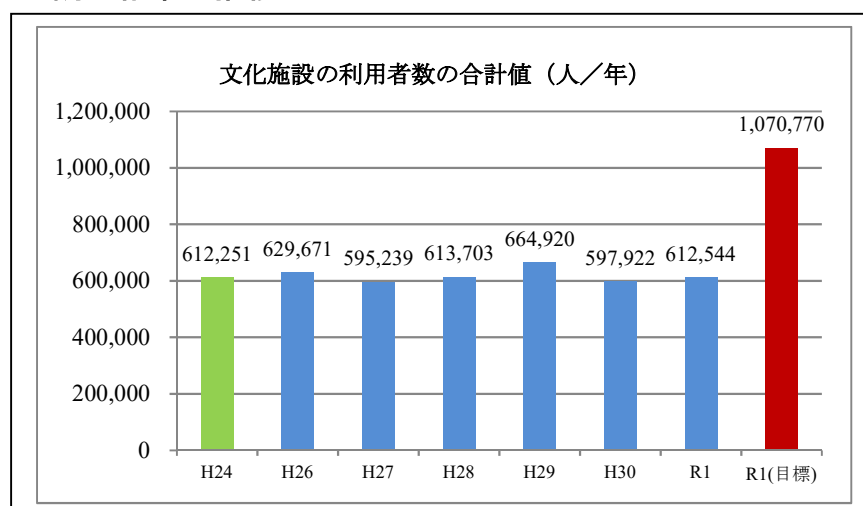
目標達成に向けた主要事業は、高崎駅東口栄町地区再開発事業が進捗しなかったため、当初見込んだ効果は得られず、最終年度には新型コロナウイルスの影響も受けたが、高崎オーパの開業、周辺店舗への波及効果等が大きな要因となり、目標値の8割ほどまで達するなどほぼ期待通りの効果が得られた。

今後は、新型コロナウイルスの終息状況を注視しつつ、計画期間中に十分な効果が発揮されなかった高崎芸術劇場やGメッセ群馬、整備予定の高崎駅東口栄町地区の再開発ビル等を活用して各種イベントを実施することで、買い物や食事をしてもらえる機会が増え、より一層の効果の発現が見込める。

次期計画では、目標指標として位置付けないが、計画終了後も、上記効果の発現が持続しているか検証するため、国の経済センサスなどの統計結果などを注視していく。

「文化施設の利用者数の合計値」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 85～P. 89 参照

1. 調査結果の推移



年	(人/年)
H24	612,251 (基準年値)
H26	629,671
H27	595,239
H28	613,703
H29	664,920
H30	597,922
R1	612,544 (目標 1,070,770)

※調査方法：利用者数調査（独自調査）

※調査年：令和元年度

※調査主体：高崎市

※調査対象：群馬音楽センター、高崎シティギャラリー、高崎市美術館
高崎市タワー美術館、高崎芸術劇場

2. 目標の達成状況【B2】

文化施設の利用者数の合計値の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり完了・実施したが、令和元年度の最新値が、目標値の80%に及ばなかったため、達成状況はB2とした。

対象となる施設のうち、波及効果も含め年間407,000人の利用者を見込んでいた高崎芸術劇場の完成時期が当初計画から遅れたことに加え、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念され始めたことにより2、3月の催事利用のキャンセルが相次いだこと等が要因となり、当初見込んだ効果の発現に至らなかった。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 高崎音楽祭（高崎音楽祭委員会）

事業実施期間	平成22年度～【実施中】
事業概要	高崎音楽祭は、クラシックやジャズなど、期間中はあらゆる音楽が高崎に集結し大きな賑わいを見せている。芸術鑑賞の機会を提供することで来訪者の増加に繋げるもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	高崎芸術劇場を中心市として、群馬音楽センターや高崎シティギャラリーなど中心市街地の至るところで音楽イベントを実施することにより、多数の集客効果をもたらしている。
達成した（出来なかった）理由	幅広いジャンルの音楽を提供することで、様々な年齢層の方々がコンサート等の鑑賞に訪れるようになったため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業実施により、会場を訪れた人たちが、その前後にまちなかで買物をするなど回遊することにより、中心市街地の賑わいにつながっている。
事業の今後について	音楽でまちなかのにぎわいを創出する事業として今後も継続していく。

②. 地域交流センター整備事業（高崎文化芸術センター整備事業）（高崎市）

事業実施期間	平成22年度～令和元年度【済】
事業概要	群馬県の玄関口である高崎駅の利便性や高速交通網を生かした広域誘客を図るため、芸術文化創造の中心となる施設を整備し、賑わいと情報発信の拠点とする。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎駅東南地区））（国土交通省）（平成26年度～平成28年度） ②社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（高崎駅東口地区））（国土交通省）（平成26年度～令和元年度） ③社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎駅東口周辺地区））（国土交通省）（平成29年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	目標値 380,000人 最新値 125,370人 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	整備事業の遅れにより、開館が遅れ年間と通じての稼働ができなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	高崎芸術劇場は、令和元年6月に整備事業が完了、9月に開館した。約半年間の稼働のため、利用者は年間目標値には達していないが、今後は高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備された大規模集客施設として、イベント開催時などは歩行者・自転車通行量の増加等の効果が期待できる。
事業の今後について	今後は、整備した施設内で大規模なコンサート等のイベントを開催するなど、効果的な活用に努め、利用者数の増加を図っていく。

③. 企画文化事業（高崎市）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	高崎の文化性、ブランド力の中核となる群馬交響楽団の演奏会や国内外のエンターテインメント性の高い芸術鑑賞の機会とともに、市民の文化活動の成果を発表する場を提供することで広域からの集客向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	群馬交響楽団では年間 10 回の定期演奏会のほか、年間約 30 回の依頼演奏会を実施している。また、中心市街地のカフェで「Café パーティー with 群響メンバー」を開催するなど、活性化に寄与する事業を展開している。
達成した（出来なかった）理由	事業を実施し、中心市街地の文化施設にコンサート等を鑑賞する人が訪れることにより賑わいが創出されるため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業実施により、文化施設を訪れる人がまちなかで買い物や飲食をすることで、歩行者通行量の増加につながる。
事業の今後について	音楽でまちなかのにぎわいを創出する事業として今後も継続していく。

④. まちなか音楽活動助成事業（高崎まちなか音楽活動実行委員会）

事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	「音楽のある街・高崎」の実現のため、街かどや商店などにおいて週末を中心に日常的に行われる音楽活動を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	高崎駅西口商業エリアにおいて、地元ミュージシャンが路上ライブを行うための支援や、同エリアで行われる他のイベントとのコラボレーション演奏企画を実施するなどにより、同エリアの振興、音楽関係団体やアーティストへの活動の場の提供と育成に寄与した。
達成した（出来なかった）理由	事業実施により、まちなかで音楽が演奏されることにより足を止めて鑑賞する人などが増え、にぎわいが増したため。
計画終了後の状況（事業効果）	まちなかで頻繁に路上ライブを開催することで、中心市街地を訪れる人が増えるとともに、音楽のある街として高崎市を PR できた。
事業の今後について	音楽でまちなかのにぎわいを創出する事業として今後も継続していく。

⑤. おもてなし事業（高崎市、高崎商工会議所、高崎市中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	民間主体の回遊型音楽イベントとの連携や、既存文化施設でのイベントと中心市街地内で展開するオープンカフェや飲食店と連携した割引サービスの実施など、商店街と関係各所が連携して行う取組みを支援し、中心市街地の回遊性向上と集客力の強化を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	本事業は、「音楽関連イベントと商店街の販売促進連携」、「商店街やまちなかの情報発信による誘引」、「音楽関係団体やアーティストへの活動の場の提供と育成を行う高崎おとまちプロジェクト」、「オープンカフェや飲食イベントなどの連携による誘引」、「ぐるりんと商店街の連携事業」、「大型店と商店街の連携事業」から構成され、駅周辺への来訪者を中心市街地全体へ誘引する効果をもたらしている。

達成した（出来なかった）理由	まちなかオープンカフェの参加店での音楽イベントの実施や大型店舗や商店街が連携するえびす講市など、関係各所と商店街が連携した事業の効果により、まちなかの賑わいにつながったため。
計画終了後の状況（事業効果）	事業実施により、駅前に集まった人が中心市街地全体へと回遊することに寄与した。
事業の今後について	次期計画に事業掲載はしないが、おとまちプロジェクトとの連携によるオープンカフェでのコンサート開催など関係各所が連携した事業を今後も進めていく。

4. 今後の対策

目標達成に向けた主要事業は、高崎文化芸術センター（高崎芸術劇場）の整備が当初より遅れたため、見込んでいた効果は得られなかったが、今後は効果の発現が期待できる。

高崎芸術劇場の開館により、これまで群馬音楽センター等の文化施設で開催していた群馬交響楽団の演奏会や高崎音楽祭のコンサートなど、比較的規模の大きなものが劇場で実施されるようになったため、従来の文化施設では市民活動規模の演奏会などをこれまで以上に行える機会が拡大した。

今後は、新型コロナウイルスの終息状況を見極めつつ、計画期間内で整備した高崎芸術劇場において大規模コンサートの開催回数を増やすなど、有効に活用することにより、既存の文化施設の利用にも波及効果が見込まれる。

次期計画においては、既存の5つの文化施設に、高崎アリーナ、Gメッセ群馬、高崎駅東口栄町地区の再開発ビル内のパブリックゾーンを新たに対象施設として追加し、目標指標を「都市集客施設の利用者数の合計値」とし、2期計画の効果の発現も確認しながら、文化に限定せず、広く中心市街地の集客力を測定することとする。